

【12 山側自然斜面の防災対策】

- 平成 26 年 8 月に発生した大規模土砂災害を踏まえ、埋立地南側の比較的ゆるやかな斜面についても、土砂災害等の危険性について再調査し、谷止工の背面に柔構造バリアを組み合わせて設置する等により、さらに安全な防災施設となるよう構造を見直しました。
- 本埋立地周辺に存在する 15 溪流について、すでに対策がとられている溪流を除き、残る 14 溪流について、以下のとおり土砂災害を防止する施設を整備します。
 - ・急傾斜の溪流 3 箇所 — 砂防堰堤を整備。(図中の●水色、●黄色)
(うち 1 箇所は、背面に柔構造バリアを組み合わせて整備。)
 - ・その他の溪流 11 箇所 — 谷止工等を整備。(図中の●緑)
(うち 7 箇所は、背面に柔構造バリアを組み合わせて整備。)

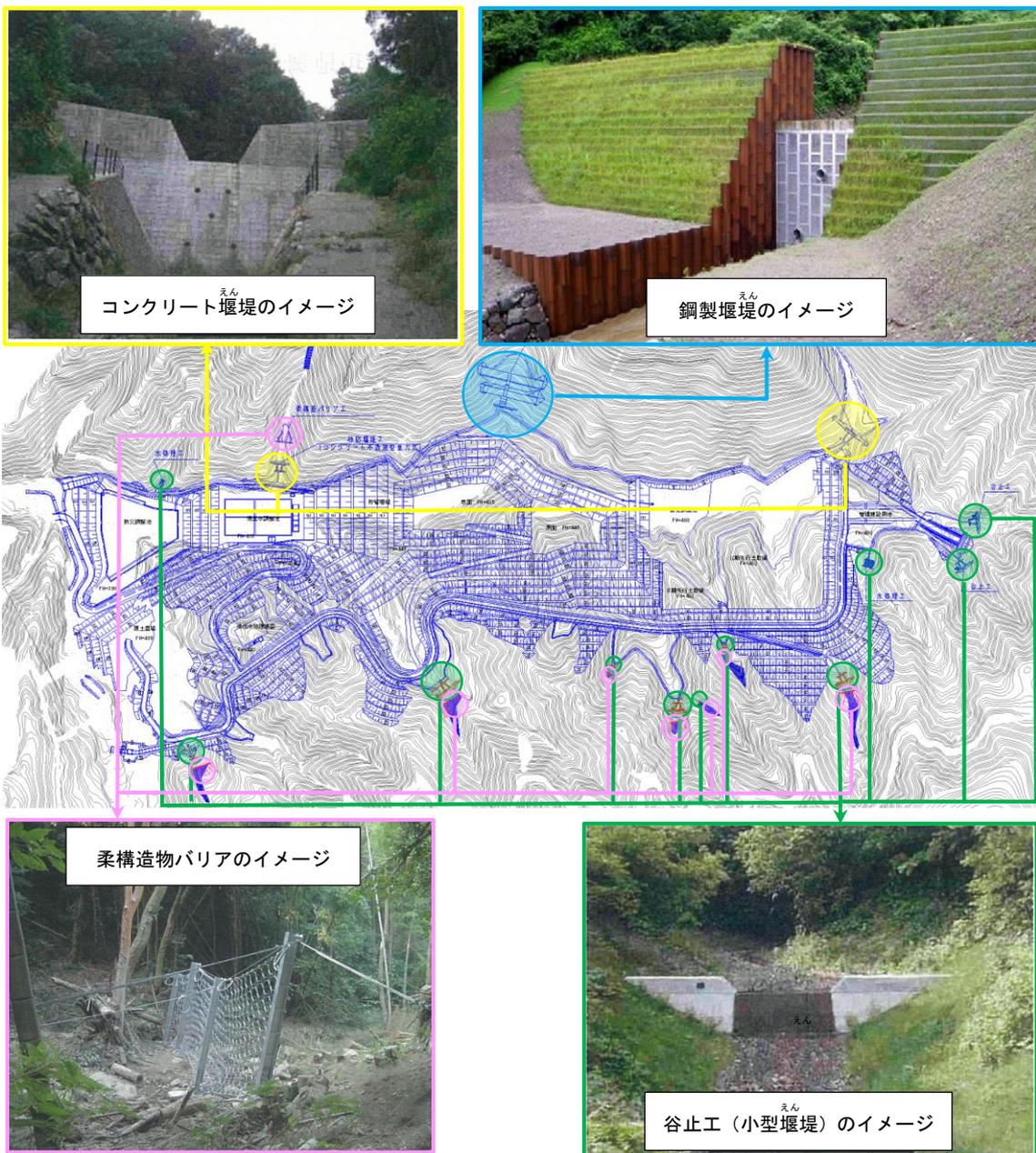


図-1 斜面の防災施設

- 溪流以外の急な斜面については、落石を防止するために、高エネルギー吸収柵等を設置します。



図-2 バイパス水路の防護柵イメージ